



常に挑戦

参議院議員  
しんば賀津也

いつも暖かい指導、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、静岡県を代表する参議院議員としての6年目を迎えることが出来ました。いよいよ決戦の年。参議院で与野党が逆転すれば、政権交代に大きく近づきます。「暮らしを守り1円の税金も無駄にしない」政治の実現、そして、我が国の平和と安定を確保するための外交・安全保障・エネルギー政策の実行を目指し、初心を忘れず、「常に挑戦」の姿勢で活動して参ります。引き続き、ご指導下さいますよう心よりお願い申し上げます。

参議院議員  
榛葉賀津也

## しんば賀津也と歩む会 活動報告

この6年間、しんば議員を支え、ともに歩んできた「歩む会」。多くの活動の中から、昨年後半の活動を紹介しします。皆さんもぜひ、「歩む会」の活動にご参加ください。

### 楽しむ! スポーツ・親睦行事

しんば議員も参加しての各種スポーツ・親睦行事を開催。恒例となった夏のバーベキュー大会、親睦野球大会(9月)に加え、地元を中心にグラウンドゴルフ大会も2回(1月と12月)開催しました。誰もが楽しめる行事を今後も計画していきます。



### 榛葉賀津也 プロフィール

- 昭和42年 静岡県小笠郡菊川町(現菊川市)生まれ
- 昭和61年 静岡県立掛川西高等学校卒
- 平成 3年 米国オハイオ州オタハイン大学卒業  
イスラエル国立エルサレム・ヘブライ大学院 留学
- 平成 6年 菊川町議会議員当選(26歳・1期)
- 平成13年 第19回参議院議員選挙当選(34歳・1期)
- 平成18年 参議院国会対策委員長代理・「次の内閣」防衛庁副長官などを歴任

### 間く! 国政報告会・演説会

報告会や座談会を随時開催。県内議員との合同報告会(浜松市、藤枝市、南伊豆町など)や少人数の座談会も多数開催しました。また、静岡市青葉公園での演説会(12月10日)は熱気があふれ、今年の大きな戦いへの意気込みを感じさせる会となりました。今後皆様からの声を聞く意見交換の場として開催していきます。



### 観る! 国会見学・旅行

しんば議員の活動の拠点、国会議事堂を見学するツアーを開催し、世界らん展(2月)やプロ野球観戦(8月)なども盛り込みました。また、わたなべ周先生の後援会と合同で高山温泉への1泊旅行(11月)や駒門駐屯地での乗車体験(8月)など、楽しい旅行や体験ツアーも大好評。今後の企画にご期待ください。



しんば議員と共に  
政権交代を実現!  
お知り合いをご紹介ください

しんば賀津也と歩む会では、より多くの方々に、しんば議員の政策や政治にける想いを知って頂きたく、しんば議員の政策や活動記録を簡単にまとめたリーフレットを作成しました。リーフレットには紹介カードも入っております。静岡県内の全ての市と町が、しんば議員の活動範囲です。一人でも多くのお知り合いの方にお配り頂ければ幸いです。政権交代実現のため、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

**中学生が職場体験**  
「人づくり」を重要と考えるしんば事務所では、学生のインターンや職場体験を受け入れています。昨年は、地元掛川西中の中谷君が1週間職場体験を行ないました。

**ボランティア大歓迎!**  
しんば事務所では、さまざまな活動をお手伝いして頂ける「ボランティア」を募集しています。事務所での電話かけ、屋外でのポスター貼りやチラシ配りなど、空いた時間を利用したボランティア活動に、お一人でも多くのご参加をお待ちしています!





# 静岡産、ニッポンの創造力

# しんば賀津也「2007創造元年」宣言

若さ・行動力・世界に広がるネットワーク・6年間の国会議員経験を活かし、新たな「ニッポン」づくりに挑戦することを、静岡から宣言します。

## 「人づくり」「こそ」「国づくり」

人づくりが急務

「人は石垣、人は城」かつて駿河の地まで勢力を伸ばした戦国武将・武田信玄が、「国づくり」のために、城の建設よりも人材育成、「人づくり」を重視したことを示す言葉です。信玄は志半ばで亡くなりますが、その後、駿河を支配した徳川家康が「二百五十年以上も続く江戸幕府を開くことが出来た理由の一つに、家康が信玄の遺臣を数多く登用し、「人は国の礎」と考えた信玄流の民政方法を大いに採用したことが挙げられるからです。

犯罪の低年齢化、学力や体力の低下、そして、多発するいじめ、自殺、親子間での殺傷事件など、子供をめぐめる様々な問題が顕著になってきていますが、その背景にあるのは、これまで目先の経済発展、「物づくり」を優先するあまり「人づくり」を軽視してきたことなのではないでしょうか。正に「人づくり」が急務であり、「人づくり」のための予算や政策を拡充することが「国づくり」に欠かせないことを、国会議員として、二人の子の父親として、肌身で実感しています。国民的な議論が無いままに教育基本法の改正を強行したり、やらせのタウンミーティングを何度も行ってきた今の政府に、「人づくり」を任せることは出来ません。

## ホワイトカラー・エグゼンプションに反対

「サービス残業」に象徴されるように、日本の親は「会社偏重」的であり、仕事と家庭のバランスが崩れ、家族内の関係が希薄になる大きな原因となっています。家族は「人づくり」の原点です。政府が導入を進める「ホワイトカラー・エグゼンプション」(労働時間規制の撤廃では、残業代が支払われないだけでなく、現在の長時間労働を更に助長する可能性が高く、「人づくり」の観点からも絶対に反対です。

## 実は少ない日本の教育予算

日本の教育予算は国内総生産(GDP)比三%余りで、先進国の中ではかなり低い水準となっています。「人づくり」を充実するために、教育予算を先進国の平均であるGDP比五%以上に引き上げることが必要であると考えます。これにより、五歳児の就学前教育の無償化、三十人以上下級の実現、補助教員の充実などを推進します。

## 真に必要なとしている人、地域の為に税金が使われる仕組みをつくる

### 一般財源化は筋違い

道路特定財源とは、文字通り、道路整備のための財源です。公共事業の削減が進んだ結果、道路特定財源は残りつづあり、二〇〇七年度には約六千億円もの剰剰が生じているとされています。その余った予算を他の目的に使うために政府が目指しているのが「一般財源化」です。しかし、本当に必要な道路が十分に整備されているのでしょうか。例えば、高齢者や子供等の交通弱者保護のための歩道、環境や健康に良い自転車のための専用道路、また、三速兩信自動車道、伊豆縦貫自動車道のような幹線道が不足している地域のための道路等の整備などは今後必要であり、そのための予算は十分に確保されるべきではないでしょうか。その上で余れば、納税者に返す、減税するべきで、「もった物は返さない」と言わんばかりの一般財源化は筋違いです。

### 行政の無駄を徹底的に省く

今年で所得税や個人住民税に対する定率減税が完全に廃止されます。しかし、定率減税は「抜本的な所得税の見直し」を行った上で廃止されることが本来の前提であり、そうした見直しも無いままの廃止は、既に厳格に源泉徴収されている給与所得者を狙い撃ちにする安易な増税と言わざるを得ません。増税の前に、まずは、昨年大きな問題となった「天引き」や官製談合等に象徴される行政の無駄や、不透明な特別会計等を徹底的にチェックすることが先決であるはず。

### 消費税の全額を年金財源に

高齢化社会に対応するには、信頼できる年金制度の確立が不可欠です。消費税の全額を年金の基礎部分の財源に充当し、高齢者が安心して生活できる、若い世代が老後の不安なく今の生活を送ることができるようになります。

## 自立したニッポンをつくり、世界平和に貢献

### 食料・エネルギーの自給率を引き上げる

日本の農林水産業は衰退しつつあると言われます。しかし、食料自給率は元より、エネルギー自給率の向上に欠かせないのが、農林水産業の復活です。例えば、原油の高騰により注目を浴びているのがバイオマスエネルギーです。さとうきび、米等の農作物や間伐材のチップ等からアルコールを、菜種油等の植物油からディーゼル用燃料を作り、自動車で利用する試みが始まっています。更に積極的に開発を進め、農山村を、食料と共にエネルギーを供給する地域に転換させるべきです。同時に、日本が得意とする省エネ技術や原子力エネルギー利用技術の開発を促進し、エネルギーの完全自給を目指します。少資源国の日本が食料やエネルギーの自給率を大幅に高めることが出来れば、その技術や政策は、地球規模の食料危機、エネルギー危機、地球温暖化等の環境危機の防止に大いに貢献するはずです。

### 真の信頼関係を構築し、日本の外交力を強化

米国追従・辺倒の関係から脱却し、日本が独自の立場・判断で外交を行うことは、米国と関係が良好でない国との外交の促進や、核軍縮・廃絶等への貢献を可能にし、結果、中東和平やアジアの安定、世界平和に寄与することにつながります。自由貿易協定(FTA)、経済連携協定(EPA)の締結や人的交流を促進し、米国も含めた各国との真の信頼関係を構築することにより、日本の外交力を強化し、「自立したニッポン」をつくりたいです。



多摩少年院を視察

子供たちが犯罪に走ることがないよう、家庭や社会の環境を整えることが最優先課題です。しかし、万が一、罪を犯してしまった場合に、再び罪を犯すことがないように適正に矯正し社会復帰させる仕組みを整備しておくことも欠かせません。再犯防止の重要性や難しさを改めて痛感しました。(平成18年11月6日)

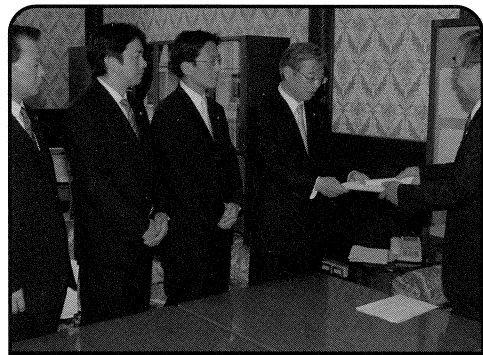


野球少年転じて審判員 棟業賀津也氏

「夢の延長」は裏方で  
「夢の延長」は裏方で  
「夢の延長」は裏方で  
「夢の延長」は裏方で

野球を通じた「人づくり」

かつて甲子園を目指した高校球児でした。最後の夏はレギュラーにはなれませんでした。最後の夏はレギュラーにはなれませんでした。最後の夏はレギュラーにはなれませんでした。最後の夏はレギュラーにはなれませんでした。



「天引き規制法案」等を参議院へ提出

官民の癒着、利権の温床化の要因の一つに「天引き」があります。天引きの横行は、ずさんな契約や不必要な財政支出等に加えて、特殊法人等の退職・再就職を繰り返す人物に対して無駄に退職金が支払われていることにもつながります。貴重な税金の無駄遣いを厳しくチェックし、徹底した歳出カットを目指します。(写真は平成18年5月22日参議院内にて)



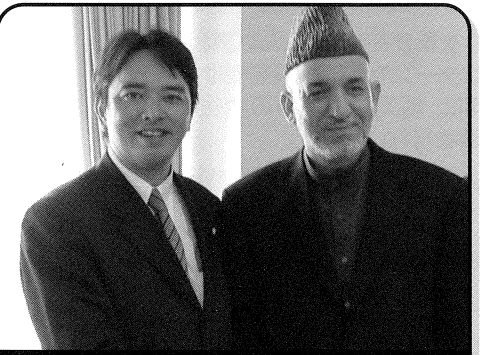
外国人犯罪人引渡し条約締結を要請

日本の人口が減少するに伴い、在日外国人の数は益々増えることが予想されます。しかし、今もなお、ひき逃げ死亡事故等を日本で引き起こした外国人の多くが罰せられずに母国に逃亡したままであるなど、日本国内における「国際化」への準備は明らかに不十分です。真の国際関係を築くための対応が急務です。(平成18年11月27日 写真提供:外務省)



政府の外交姿勢を質す

米国やイスラエルへの留学以来、外交・国際問題、特に中東、安全保障、エネルギーの問題についてライフワークとして取り組んでいます。初当選以来、参議院外交防衛委員会に所属し、昨年の国会では、外国人犯罪人引渡し条約、日本フィリピンEPA等について質問しました。(写真は、平成18年12月5日の参議院外交防衛委員会)



外交問題の専門家として行動する

真の国際関係を構築するには、日頃から個人レベルの関係を開拓することも欠かせません。時間の許す限り、中東・アジア地域を中心に各国を訪問したり、来日した要人と会うことを心掛けています。また、民主党の北朝鮮ミサイル発射問題対策本部等でも積極的に発言しています。(写真は、平成18年7月6日、来日したアフガニスタンのカルザイ大統領と)